

みくに保育園自己評価

令和4年度

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。これに基づき、みくに保育園の保育の質の向上を図る為に自己評価を実施いたしました。保育園としての自己評価について、評価の項目、視点、方法および評価結果を下記の通り公表し、評価の結果を踏まえ今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。

『評価について』

A:よくできている B:わりとできている C:一部改善が必要 D:改善しなければならない

保育所の基本原則

- ・みくに保育園の保育理念、保育目標、保育指針を理解している

A	11	B	9	C	2	D	1
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・保育指針に書かれている保育所の役割、保育の目標、方法、環境を理解している

A	8	B	11	C	4	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

- ・保育指針に書かれている保育所の社会的責任について理解している

A	9	B	12	C	2	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

養護に関する基本的事項

- ・保育における養護とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであり、保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことがその特性であることを知っている

A	12	B	7	C	0	D	1
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・生命保持のねらい内容について知っている

A	11	B	8	C	0	D	1
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・情緒の安定のねらい内容について知っている

A	10	B	9	C	0	D	1
---	----	---	---	---	---	---	---

保育の計画及び評価

- ・保育目標を達成するために、自園の保育方針や目標に基づき、子どもの発達過程をふまえて、全体的な計画を作成することを知っている。

A	13	B	5	C	1	D	1
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・全体的な計画に基づき、具体的な保育が適切に展開されるよう、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と、それに関連しながら、より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的な指導計画を作成している。

A	8	B	9	C	2	D	1
---	---	---	---	---	---	---	---

- ・3歳未満児は、一人ひとりの子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成し、3歳以上児は、個の成長と、子ども相互の関係や共同的な活動が促されるように配慮し、適切な援助や環境構成ができるよう配慮している。

A	9	B	6	C	4	D	1
---	---	---	---	---	---	---	---

- ・障害のある子どもの保育については、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置付けている。

A	9	B	8	C	2	D	1
---	---	---	---	---	---	---	---

・子どもの主体的な活動を促すためには、保育士等が多様な関わりをもつことが重要であることを踏まえ、子どもの情緒の安定や発達に必要な豊かな体験が得られるよう援助している。

A	8	B	8	C	4	D	1
---	---	---	---	---	---	---	---

・保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。

A	7	B	7	C	5	D	1
---	---	---	---	---	---	---	---

幼児教育を行う施設として共有すべき事項

・幼児教育を行う施設として共有すべき事項及び生涯にわたる生きる力の基礎を培うための示された保育の目標を踏まえ、保育所として一体的に育むよう努める「資質・能力」の3本の柱の内容を知っている。

A	8	B	7	C	3	D	2
---	---	---	---	---	---	---	---

・幼児教育を行う施設として共有すべき事項として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目をしっている。

A	8	B	8	C	2	D	2
---	---	---	---	---	---	---	---

保育の内容

・保育における「養護」とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであることを理解している。

A	13	B	4	C	2	D	1
---	----	---	---	---	---	---	---

・「教育」とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助であることを理解している。

A	11	B	7	C	1	D	1
---	----	---	---	---	---	---	---

・乳児期の領域「3つの視点」について知っている。

A	7	B	7	C	5	D	1
---	---	---	---	---	---	---	---

・乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いことから、一人一人の発達及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行っている。

A	9	B	7	C	3	D	1
---	---	---	---	---	---	---	---

・1歳以上3歳未満児の「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の意味、「ねらい」「内容」「内容の取扱い」について知っている。

A	8	B	8	C	4	D	1
---	---	---	---	---	---	---	---

・3歳以上児の発達の内容と「5領域」について知っている。

A	9	B	9	C	1	D	1
---	---	---	---	---	---	---	---

保育の実施に関して留意すべき事項

・子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助している。

A	6	B	11	C	3	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにし、また、子どもの性差や個人差にも留意しつつ、差別などによる固定的な意識を植え付ける事がないようにしている。

A	10	B	7	C	1	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・保育所保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基盤を培うようにしている。

A	5	B	9	C	4	D	1
---	---	---	---	---	---	---	---

健康及び安全

・子どもの心身の状態に応じて保育するために、子どもの健康状態並びに発達及び発達状態について定期的・継続的に、また、必要に応じて随時、把握している。

A	9	B	8	C	3	D	0
---	---	---	---	---	---	---	---

・子どもの心身の状態等を観察し、不適切な養育の兆候が見られる場合には、市町村や関係機関と連携し、適切な対応を図っている。虐待が疑われる場合には、速やかに市町村又は児童相談所に通告し、適切な対応を図っている。

A	9	B	9	C	2	D	0
---	---	---	---	---	---	---	---

・感染症やその他の疾病の発生の予防に努め、その発生が疑いある場合には、必要に応じて嘱託医市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、予防等について協力を求めている。

A	11	B	6	C	4	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・アレルギー疾患を有する子どもの保育については、保護者と連携し、医師の診断及び指示に基づき適切な対応を行うとともに、食物アレルギーに関して、関係機関と連携して、自園の体制構築など、安全な環境の整備を行っている。

A	13	B	6	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・保育所における食育は、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培う事を目標とし、子どもが生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しむ合う子どもに成長していくことを期待するものであることを知っている。

A	11	B	8	C	3	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように、子どもと調理員等との関わりや、調理室など食に関わる保育環境に配慮している。

A	3	B	9	C	9	D	0
---	---	---	---	---	---	---	---

・保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態等を踏まえつつ、施設内外の安全点検に努め、安全対策のために全職員共通理解や体制づくりを図るとともに、家庭や地域の関係機関の協力の下に安全指導を行っている。

A	4	B	11	C	5	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・事故防止の取り組みを行う際には、特に、睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫など必要な対策を講じている。

A	8	B	8	C	3	D	0
---	---	---	---	---	---	---	---

・防火設備、避難経路等の安全性が確保されるよう、定期的にこれらの安全点検を行う、備品、遊具等の配置、保管を適切に行うなど日頃から、安全環境の整備に努めている。

A	6	B	12	C	2	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・火災や地震などの災害の発生に備え、緊急時の対応の具体的内容及び手順、職員の役割分担、避難訓練計画等に関するマニュアルを作成し、定期的に避難訓練を実施するなど、必要な対応を図っている。

A	5	B	11	C	3	D	1
---	---	---	----	---	---	---	---

子育て支援

・保育及び子育てに関する知識や技術など、保育士等の専門性や、子どもが常に存在する環境など、保育所の特性を生かし、保護者が子供の成長に気付き子育ての喜びを感じられるように努めている。

A	8	B	9	C	2	D	0
---	---	---	---	---	---	---	---

・保護者の状況に配慮した個別の支援がとられている。

A	7	B	9	C	2	D	1
---	---	---	---	---	---	---	---

・不適切な養育等が疑われる家庭への支援が確立されている。

A	4	B	11	C	4	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

職員の資質の向上

・自己評価に基づく課題を把握し、保育所内外の研修を通じて、自身の職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めている。

A	8	B	9	C	4	D	0
---	---	---	---	---	---	---	---

・職員が日々の保育実践を通じて、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上を図るとともに、保育の課題等への共通理解や協働性を高め、保育所全体として保育の質の向上を図っていくために、職場内での研修の充実が図られている。

A	1	B	11	C	8	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

「個人評価」

*今年度の評価・課題

- ・子ども一人一人と関わり、子どもの思いを受け止め、笑顔で穏やかに過ごせて良かった。
- ・子ども一人一人の個性等に合わせた声掛けや援助を心掛けたつもりではいる。
- ・今年度は給食・おやつにおいて不適切な保育があり園全体で食育に対する考えを見直し改善する良いきっかけとなった。子ども達が楽しく食事ができることを一番に考え、取り組んで行かなければならないと感じた。
- ・今まで当たり前のように業務をしていたことが、外から見ると疑問に思うことが多くある事に気づいた事がとても良かったと思いました。
- ・一人ひとりをしっかり理解することが出来ず、保育者の思いを子どもに押し付けてしまいました。子どもの意見をしっかりと聞くことで、保育者の声に耳を傾けてくれることが出来ました。
- ・正職員が1人だったことで色々手が回らないことも多く、パート職員により負担を掛けてしまった。
- ・年長児クラスと言うことも有り、やりがい強く感じる事が出来た。同時に就学までに目指した目標を途中で断念することも有ったので、一人ひとりの保育、言葉かけの難しさも感じられた。
- ・赤ちゃんの担任と言うことも有り、命の安全安心して過ごせる環境や担任との信頼関係を重視して保育するようにした。
- ・子ども一人ひとりの成長が大きく見られる年齢のクラスだったので、姿を振り返ったりそこから個々の成長を自分の事の様に喜べる時間を多く持てました。
- ・自分なりに何事も一生懸命に全力でやる事が出来たが、心に余裕がなく、理想とする保育ができず子ども達には申し訳ない部分もあったが、次に生かせるようにしたい。
- ・子どもにどう声掛けしたら意欲的に動くか、楽しく活動や遊びに取り組めるか試行錯誤しながらも出来た一年かと感じる。だが反省や課題も多く、自分の中でもっとこうすれば良かったと思う点も多々あった為、今後の課題としたい。
- ・主の保育士を中心に、確認し合いながらクラスの保育士全員で子どもの成長を見守り良い所を伸ばす事が出来たと感じます。

- ・業務内容における役割分担等効率化を図り、安心安全な給食の提供、手作りおやつを増やす。
- ・一人ひとりと向き合いながら、無理のないように、できることを伸ばす保育が出来たと思う。
- ・ブログや動画など、園に対する働きは力を入れることができたが、その反面クラス保育に力を入れる事が出来なかった。
- ・自分の保育が虐待にあたるのか、改めて考え直した一年だった。「この年齢だとここまで出来ないといけない」「やらないといけない」という思いは少なからずあった。
- ・心に余裕がなく声かけが強くなってしまったことがり、子ども第一に考え行動に写せるよう反省する

* 次年度の改善点

- ・学年、園全体を見つつ、より良い保育をしていきたい。
 - ・子ども主体の保育を心掛けたい。
 - ・給食やおやつメニューを充実させ、子ども達が笑顔で楽しく食事が出来るように工夫する。
- また、子ども達が様々な食体験を通して食に興味関心を持てるような食育を計画していく。
- ・子ども一人一人の気持ちをしっかり理解し、その子に合った声掛けをして、やる気を高められる様にしたい。
 - ・同じように年齢に関係なく安心して過ごせるように子ども達と信頼関係を築けたらと思う。
 - ・職員間で助け合いながら上手に連携を図っていくようにする。
 - ・保育者は子どもが保育園生活を送る中での環境の一つとして考え、安心して関われる存在であることを意識し、信頼関係を築けるように心がけていきたい。
 - ・子ども達の思いをしっかりと聞き保育をしていきたいと思います。
 - ・たくさんのかんことを一気に考えすぎて、どれもうまくいかなかったり、焦ってしまうことが多かった。
 - ・これからはマスクを外しながら喜怒哀楽をはっきりと笑顔で接して行きたいと思います。
 - ・自分の中で余裕が持てない時があり、もっと良い声掛けがあったのではないか、もっと先のことを考え見通しのある準備、活動を設けられたと思う。
 - ・学年によりまた対応が違っていくため、その学年の子ども達にあった対応をよく学んで行けたらと思う。
 - ・子ども一人ひとりと丁寧に関わり、危険の内容
 - ・園児にとって食べやすく、栄養面も考慮した献立にする。手作りおやつを充実。
 - ・子どもへの関り、保育技術向上に力をいれたい。
 - ・危険な行為、思いやりに欠ける行為以外は保育士自身の思いを強要しない。一日楽しく、心地よく過ごせる事を第一に考える。

「クラス運営評価」

* 今年度の評価・課題

- ・一人ひとりとたっぷりと向き合うことが出来、穏やかにそして、クラス全体がまとまりがあり

良かった。

- ・保育者の声掛けに対して、「静かに話を聞く」という基本的なことが出来るようになったり、一年を通しての成長が感じられた。
- ・クラス全体としては、年度後半ごろにはとてもまとまりが出来、同時に活動に意欲的に取り組める雰囲気が出来ていた。
- ・3人担任ということも有り、なかなか保育が統一できていなかった。声を掛け合い助け合うこともあったが、個々の思いが強くなってしまいうことも有った。
- ・人数も多く慌ただしかったが、子ども達は元気に登園してくれて、また保護者も担任を信頼して預けてくれていたことがとても有難かった。
- ・ここ数年職員の入れ替え、人員不足に正直不安を感じながら仕事をしている。
- ・クラスをまとめるということはとても難しいことだと思いました。一人ひとりがどこまで出来るかを把握することや分かりやすく伝えることなど配慮することが多くあると思いました。
- ・活動と遊びのメリハリをつけ、遊ぶときは一緒に遊び、やる時は真剣にやるよう伝えていった。
- ・一人ひとりの性格や苦手なこと、得意なことを踏まえながら援助することが出来たと感じる。
- ・コロナインフルエンザ等が流行るなか、その都度情報を伝えてくださり、対応を詳しく教えて下さり、ありがとうございました。
- ・今年は、ブログも保護者から喜ぶ声が伺えとても良かったと思う。
- ・3人担任がいることで、子どもの見方も3通りあり、色々な見方が出来て良かった。
- ・一日の流れ連絡事項等を話し合い、共通理解してから活動することを心がけた。
- ・気になることがあっても関係悪化を恐れはっきり意見できなかった。
- ・友達同士のトラブルを把握できない部分があった。

*次年度の改善点

- ・元気な子、おとなしい子にも目を向けられるよう、子ども達と同じ方向を向いて行きたい。
- ・気持ち、時間にゆとりを持った保育を心掛けたい。
- ・クラス内の雰囲気が良くなると自然と何事にも遅れがちな子も同じ雰囲気になってくるので雰囲気作りも大切にしていきたい。
- ・保育者同士の思いを話し合い、だれが主になっても子ども達が同じ動きが出来るようにして行きたい。
- ・今年も保護者と共に子ども達の成長を後押ししていかれるように互いに協力し合っていく。
- ・慣れ合いでなく、お互いの保育やその人の良い所を自然と職員間で生まれて欲しいと思う。明るい雰囲気が今後のみくにの子ども達の姿に繋がるのではと感じる。
- ・子ども達が出来ることを考え保育していきたいと思います。また、聞く姿勢や視線等も子ども達に伝え「はなしきいて」と言葉だけでなく具体的に伝えていきたいです。
- ・全体的に自分の声量が小さく、うまく要点をまとめて話すことが出来なかった。
- ・保育士間で話し合い共通理解をし、より良い保育をして、一人ひとりの成長にあった発達を見守って行きたい。
- ・責任を自覚し、保育指針に沿ったクラス運営、学年運営を行っていく。

- ・広い空間を上手に使い、室内環境づくりを頑張りたい。また子どもの成長に合わせた環境
- ・個人的にも気持ちに余裕を持ち子どもと接したい。

「園全体評価」

*今年度の評価・課題

- ・園の為に何か出来たかと、いつも反省している。自分の出来ることをやっていきたい。
- ・園としての保育がもっと細かく明確であってほしかった。
- ・職員間の陰口が多く暗い空気が様々な場面で見られた。人間関係が良くないとクラス内の雰囲気にも影響していると思う。
- ・保育に対して余裕が無いように感じた。一人ひとりの先生が少し余裕を持って保育できるように、助け合いできたらなと思った。特に赤ちゃんクラスは手があればあるだけ助かると感じた。
- ・職員同士、助け合いできず互いに自分中心になっているように思う。
- ・問題が起こった際に話し合いの場を設け、話し合いにより解決することが出来、保護者の方も安心できたと思います。
- ・子ども達に対する言葉かけ、ちょっとした事での言葉が良くないことがある。
- ・コロナウイルス感染防止で、行事の縮小や子ども同士の交流も少なくし行った。
- ・職員とのコミュニケーション不足が多々あったと思う。
- ・避難訓練や防災訓練の充実。
- ・保護者からの要望等が多かったが、一つ一つ丁寧に対応することの大切さを感じ、問題が生じた時保護者や子どもの気持ちを汲み取り保育を進めるべきと考える。
- ・保育士の軽率な行動一つで、保育園の存続に関わり、犯罪者になるかもしれない。子どもの人生に多大な影響を与える責任の重すぎる仕事であると改めて考えさせられた。
- ・保育士一人ひとりの意識にも差があると感じた。
- ・一人の職員の行動言語が自分の行動言語として受け入れていなかった。
- ・同じ学年の先生や他の学年と相談しながら保育の内容を決めたり出来たことで異年齢とも関わられた。

*次年度の改善点

- ・クラスそして学年そして園が良い方向に向けるようコツコツと頑張っていきたい。
- ・職員が多くて大変だとは思いますが、仲が良い園でありたい。
- ・一人ひとりの気持ちの改善。
- ・余裕を持った保育が出来るよう、何か対策を考えて行けたらと思います。具体案も職員みんなで考えていきたい。
- ・全クラスが助け合い連携し合っていく姿を子ども達に示していかなくてはいけないと思う。
- ・それぞれの問題点や出来事、園児の様子などの共通理解を深め、小さな問題も見逃すことなく対応する。「ほ・う・れ・ん・そう」の徹底

- ・今年度の事を反省し個々が意識して新しい形となった食育を進め、保育に関しても原点に戻り、子どもや保護者と信頼関係を結び、安心して預けてもらう保育園を目指していきたいと思う。
- ・忙しい日々の保育の中でも、少しの時間でも子ども一人一人に向き合い声をかけ触れ合うことが大切で、今年度は改善していきたい。
- ・子どもの命を守りながら、安心して保育園で生活できるように居心地の良い場所を与える。
- ・子ども、保育士共に負担の少ない行事の見直し。
- ・製作物、パジャマの着替えなど日々の保育内容について本当に必要なのか話し合い。
- ・遅番、当番をもう少しまとめて減らせるのではないか。
- ・子どもも保育士も頑張りすぎない。優劣や強弱を持ち込まず、子ども一人一人の存在の価値を認める。
- ・子どもはもちろん職員の良い所をしっかりと見て言葉にしながらお互い反省点も見していきたい。
- ・助け合いながら協力し仕事をする。困っている職員に声をかけて共に問題を解決する。
- ・他の先生方と意見交換をしていくなかで上手く関りを持ち協力しながら仕事に取り組めるようにしたい。